裾野麗峰山の会・山行報告書

写真/小島・後藤　　文/小島・後藤

山行NO　　ＮＯ．１７１８
日　時　　２０１６．１２．２９（木）～３０（金）
メンバー　後藤（６９歳１０ヶ月）、加藤、小島
山　域　　南ｱﾙﾌﾟｽ＝仙丈ケ岳（３０３３ｍ）小仙丈尾根
コース　　１日目（晴・－５度）
下土狩発５：００－富士ＩＣ（加藤合流）－あさぎり道の駅６：００（小島合流）－甲府南ＩＣ－伊那ＩＣ－戸台発９:０５―旧丹渓山荘１２:２０－八丁坂ノ頭１３:１４―大平山荘１４：１６－こもれび荘１４：３８（泊）
標高差　　戸台約１０２０ｍ～北沢峠約２０３３ｍ＝約１０１３ｍ（ただ、長い）
距　離　　下土狩～戸台（富士ＩＣ経由）＝約２３０ｋｍ

一昨年年末、地蔵尾根から仙丈ヶ岳に上った。今回は、北沢峠から小仙丈尾根を上る。当初、予定は２７～２９日だったが、２７日が悪天候で予定変更。やや雲が多い戸台発。駐車場は満車。登山届は本部にＦＡＸ済みで軽くパス。

一つ目の堰堤を越えると渡渉があった。一昨日の雨で戸台川の水量が多かった。ここは何回も来ているが、渡渉は初めてだった。暖冬の影響もあるだろう。何とか靴を履いたまま渡ったが、１人は靴を脱いで渡った。さぞ、冷たかったことでしょう。

一人は靴を脱いで渡った

結構水が多い渡渉風景

その後も渡渉は、２～３回あったが何とかこなした。また、先週Ｋが偵察をしてくれたお蔭で先が読めて安心だった。戸台川の河原は長い。しかも、ゴロタ石だから歩き難い、歩き難い。２Ｈ歩き、日当たりの良い所で昼食。

この先が例の氷の丸太橋。前回は恐怖だったが、今回はまあまあだった。１Ｈ歩いて八丁坂に掛かる。雪面が最初から厳しいのでアイゼンを履く。ただ、全体的に雪は少ない。今年はどこも少ないという。

長い河原

怖い怖い凍った丸太橋

八丁坂上り

ひと上りで八丁坂ノ頭（かしら）。ここから仙丈ヶ岳を仰ぐ。かつて、初めての冬山だった１９６８年の甲斐駒･仙丈もこんな風景だっただろうか。道はなだらかになったが、ダラダラ長い。大平山荘（おおだいら）は無人だった。

仙丈ヶ岳を仰ぐ

大平山荘

ひと上りで、こもれび荘着。小屋は既に多くの登山者で溢れていた。寝床は一階の奥だった。２階は上り降りが大変なので、年寄に配慮してくれた？？！！

兎にも角にも、入山祝い。今回、Ｋが沢山酒を上げてくれた。ウィスキー、日本酒、手製の黒・ピルスビールが４Ｌ！！さぞ、重かったでしょう。お疲れ様。痛み入ります。そして、私がＫ提供のワイン。しかし、朝殆ど残っていなかったは、流石というべきか、凄い！！

ランプが可愛い

こもれび荘

**コース**　二日目（晴・上部超強風・－１０度）
こもれび山荘 6:26—大滝ノ頭五合目 8:24—森林限界 8:53—
大滝ノ頭五合目 9:18—こもれび山荘 10:18—八丁坂頭 12:04—丹渓山荘跡 12:45
—戸台 15:11—仙流荘 15:34—伊那ＩＣ17:42—甲府南ＩＣ18:51—道の駅 朝霧 19:27
～裾野・呼子 20:34

**標高差**　北沢峠２０３２ｍ　から仙丈ケ岳森林限界過ぎ２６６０ｍ＝６２８ｍ

**摘要**　クルマ移動=片道約 200km　山行時間=7:53

記録　小島

十二月三十日　金曜。五時半起床。室温１２℃。外気温マイナス６℃　晴れ。こもれび山荘で起床。正確には先夜就寝してから、二十二時に起きて飲酒。再度寝て二時頃から起き出してまたもや飲酒。丁度起きてきた先輩と一時間以上四方山話。

先輩は後藤さんと同じ、昭和二十二年二月二十二日生まれ。六十九才。北沢峠は毎年訪れるそうで、今年からは山には登らず、小屋で雰囲気を味わって帰るそうだ。学生時代は安保で大学がつまらない。そこで海外に貧乏旅行に出かけた。インドやアフリカを回る。現地の水や食べ物で下痢続き。それでも多くのことを学んだようだ。若い頃に見聞を広げ、苦労した人は強く逞しい。そして笑顔が優しい。

昭和２２．２．２２生まれの
ＭＫさん（後藤と全く同じ！！）

手製黒ビア

持参食料

小屋内

混んでいる

夕食

カラーお代わり
自由

五時半に起きた。朝食はスクランブルエッグ、ポテト、鮭の焼き物、漬物、蜜柑、味噌汁、御飯。御飯を四杯食べてお腹一杯。

朝食

六時二十六分に小屋発。薄暗い森の雪道を三人でもくもくと登る。最初は１００ｍほどの多少キツイ坂道。その後なだらかな道を歩く。雪は冷たく締まっている。アイゼンが程よく効き、雪玉も付かな。重い１２本アイゼンだがよく雪面を捉える。登りが急だと前爪が有効だ。二時間ほどで五合目、大滝ノ頭。この辺りから下山者が散見される。皆一様に森林限界から上は強風で断念したよし。それでもリーダーは、風は止む、頂上に行けると二人を鼓舞する。

四合目

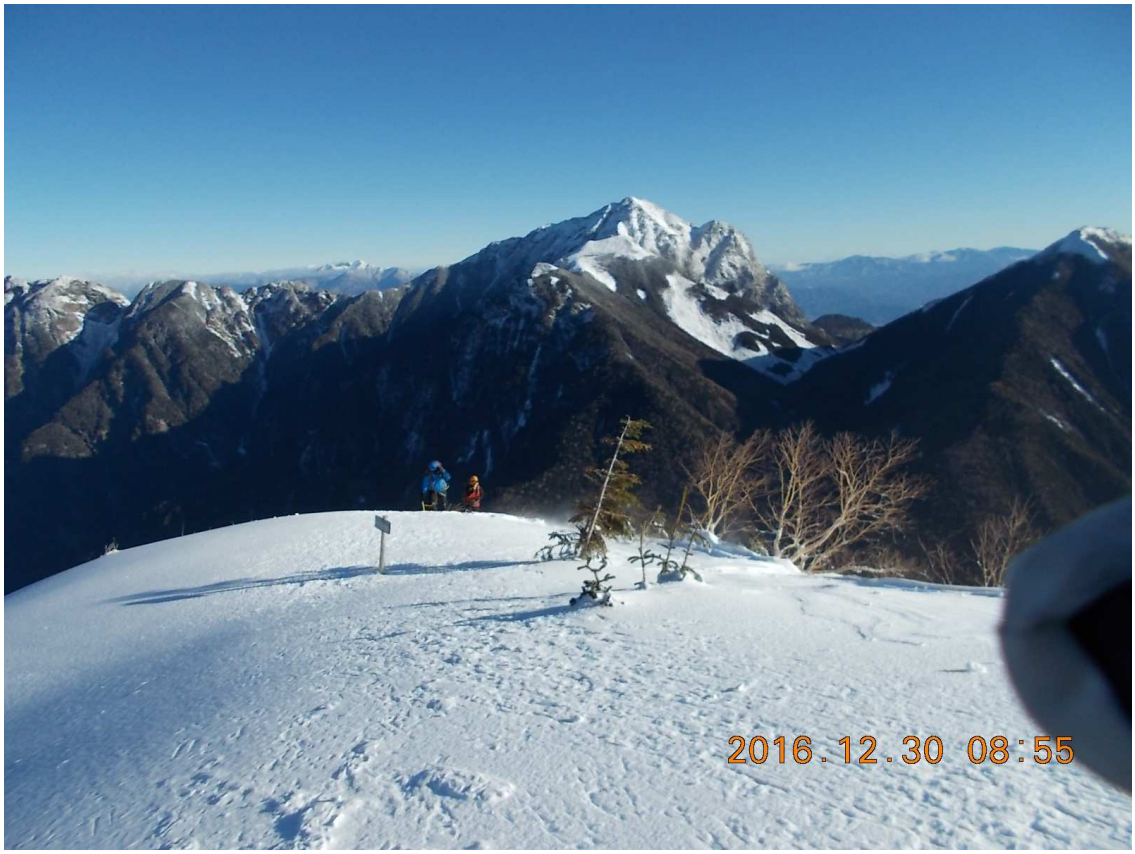
大滝頭

甲斐駒

甲斐駒（右）鋸岳（左）

ここは風はない

しかし森林限界を越えると風が一段二段と強まる。それまでの軟雪は姿を消し、硬く締まった雪。視界は良好だが北風が凄まじい。目の前に小仙丈が鎮座するがキツイ。初めて耐風姿勢を取った。尾根を５０ｍほど歩いて諦めた。山は逃げない。そこでカメラを取出し証拠写真を撮る。その為雪面に座り込んだ。そうしたら風が強くて起き上がることが出来ない。怖くて立てないのだ。登りより下りが怖い。恐る恐るへっぴり腰で森の中に逃げ込む。こちらは別世界。雪山で怖い事はまず風だ。転んだら斜面を落ちる。どうなるか分からない。それにしても甲斐駒が素晴らしい。




森林限界

森林限界

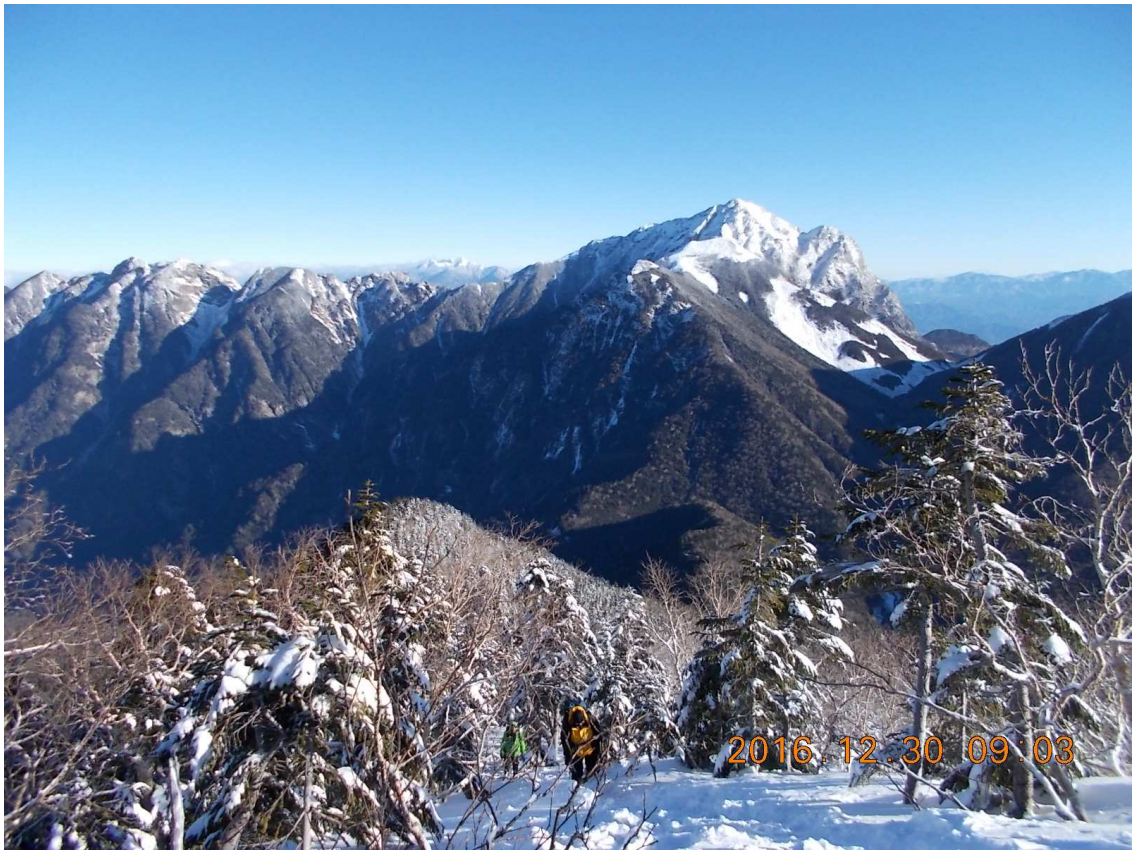
下る

凄い雪煙の北岳

十時過ぎに小屋に戻った。後藤さんが明日再チャレンジするかと聞く。私はもう結構と答える。それならと予定を早め下山する事に成った。また長い山歩きで気が重いが、早く帰宅できるのは嬉しい。

残った食料で昼食。十一時に下山開始。帰路では多くの登山者とすれ違った。幕営で大きな荷物を背負う若者が多い。私の先週の２６ｋｇなど、まだまだ序の口。見るからに４０ｋｇ近いザックが次々に現れ、もくもくと雪道を登ってゆく。大したものだ。八丁坂の悪場、渡河、長くて単調な河原歩き。それでも四時間で戸台に辿り着いた。帰路仙流荘で温泉に入り食事。帰宅は二十時半。疲れた。

いつもは幕営で独りきり。今回は小屋泊り。それも年末年始で同宿の方々は皆山オタク。波長が合うようで誰とでも楽しく会話ができる。この雰囲気だけでも五時間雪道を歩く価値がある。また今回は雪山の楽しさ、美しのみならず、厳しさ難しさを実感できた。



若い二人

怖い丸木橋

その他の記述（後藤）

１．こもれび荘は、旧長衛荘。宿泊料金は９５００－。トイレは水洗でキレイ。

２．寝室は、カーテンで仕切られ、プライベートは確保されている。遮光もされて良い。

３．夕食は豪華で食べきれない。次回は空タッパを持参し、翌日の行動食に回すとよい。今回はＫ氏に食べて貰った。ただ、年配者は食べきれないから、減らして料金を下げたほうが有難いが。

４．Ｋ氏持参の「黒ビア」は美味しかった。

５．生年月日が全く同じだった方は、渋谷区在住のＭ氏。初めての体験。奇遇だった。帰静し、すぐ賀状を送った。

６．この日、仙丈ヶ岳登山者は約５０名。下山し八丁坂ノ頭から仰ぐ仙丈は、更に激しい雪煙だった。恐らくこの日は誰も上れなかったのではないか。ちなみに甲斐駒のあさぎり山の会２名も、強風で登頂を断念したとのこと。

７．食堂で交流した東京の女子２名も途中下山。ただ、頑張って翌日再アタックという。ただ、結果は未確認。

８．下山しながら上って来る方々と会話。５０名くらい会ったが、殆どテント泊。テント泊の年配者にいちいち年齢を確認。最高年齢は７２歳。ただ、この方は若い衆が共同装備を背負い、自身は個人装備だけだった。八丁坂手前で会った方は６６歳。一昨年も来たが上れなかったと言った。皆さん高齢だが元気イッパイ。まだまだ修行が足りないか。ちなみに、仙丈で私の最後のテント泊は、１９９６年だった。

９．小屋の荷揚げは、林道を特別に開けて貰い、車で歌宿沢まで運び、そこから「ソリ」で小屋まで引っ張るという。痛み入ります。小屋主人は、私の名前を憶えていてくれた。

10. 過去の冬の仙丈ヶ岳の記録を調べた。

１．１９６８．１２．３０～１．５＝甲斐駒（摩利支天・独標ルート・水晶沢）、仙丈ヶ岳・・・**登頂**

２．１９７０．１２．３０～１．１＝仙丈ヶ岳（単独）・・・**登頂**

３．１９７５．１２．２８～１．１＝仙丈ヶ岳～三峰岳～塩見岳（いわゆる仙塩尾根・２名）・・・**登頂**

４．１９７９．１２．３０～１．１＝仙丈ヶ岳・地蔵尾根～北沢峠～甲斐駒・黒戸尾根（２名）・・・**登頂**

５．１９９６．１２．２９～１２．３１＝仙丈ヶ岳・甲斐駒・・・**両山、登頂**

北沢峠テント泊＝最高齢者Ｓ氏６５歳、荷物２１Ｋｇ

私は４９歳、荷物は２５ｋｇ

戸台発８：００～北沢着１２：４５

６．２０１１．０１．０２～１．０４＝甲斐駒**（登頂）**、仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・×

７．２０１４．１２．２７～１２．２９＝仙丈ヶ岳・地蔵尾根（４名）・・・**登頂**

８．２０１６．１２．２９～１２．３０＝仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・×

９．捲土重来。また、やりたいね。

おわり